

私立の体育大学生の教育実習における学びについての事例研究

— 保健体育教員としての資質・能力に着目して —

A Case Study of Learning about Teaching Practice in Private University Student in Physical Education

— Focusing on the Qualities and Abilities of Health and Physical Education Teachers —

体育学部体育学科

柴山 慧

SHIBAYAMA, Kei

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

白石 翔

SHIRAISHI, Sho

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

坂本 康輔

SAKAMOTO, Kosuke

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

広島大学大学院人間社会科学研究科

富岡 宏健

TOMIOKA, Hirotake

Hiroshima University

Graduate School of Humanities and Social Sciences

広島大学大学院人間社会科学研究科

石飛 朱萌

ISHITOBI, Ayame

Hiroshima University

Graduate School of Humanities and Social Sciences

体育学部体育学科

清田 美紀

SEIDA, Miki

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

広島大学大学院人間社会科学研究科

福田健太郎

FUKUDA, Kentaro

Hiroshima University

Graduate School of Humanities and Social Sciences

体育学部体育学科

早田 剛

HAYATA, Go

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

Abstract : In this study, in order to clarify what kind of learning the students of the Department of Physical Education of the A University, in O Prefecture, obtained in their teaching practice, we conducted a survey and analysis focusing on their qualities and abilities and the difficulties they felt during their teaching practice. The results revealed the following three points. First, students at A University improved most of the qualities and abilities as health and physical education teachers during their teaching practice, but problem-solving skills, globalization, and ICT need to be enhanced in the university's teaching programs. Next, from the viewpoint of improving the qualities and abilities of health and physical education teachers during the teaching practice, it would be more effective to conduct the teaching practice in the fourth year. However, in light of the earlier recruitment examinations for teachers in the future, it is necessary to organize a course that allows students to complete as many teaching-related courses as possible before the third-year teaching

practice, which the current fourth-year students have already completed. Finally, regarding the difficulties felt by the students during the teaching practice, it can be inferred that the difference between the fourth-year students and the third-year students was due to the difference in the number of teaching course-related classes taken. In other words, the fourth-year students felt more developed difficulties than the third-year students due to the difference in the number of micro teaching at the university.

Keywords : Alma Mater teaching practice, self-assessment, difficulty, teacher-training curriculum, micro teaching

1. 研究の背景

教育実習における学生の学びに関する研究について、1970年代以降にいくつもの研究がなされており、中川ほか(2021)は、それを教育実習生が教育実習を通じて得た成果という視点で類型化している。その中でも、教育実習は大学と違った環境で実施されるため、その成果を測るための評価方法を学生の自己評価とした研究(長谷川ほか, 2012)、学生の教育実習記録の分析から、教育実習において必要な資質・能力として授業技術力、授業構成力、向上心を示した研究(永田, 2013)などがある。一方で、中川ほか(2021)は、これらの研究が教育実習前後や、教育実習の過程における成果として検証したものが少ないこと、「教育実習生育成指標」「ポートフォリオ」等の何らかの根拠に基にした成果の検証が必要であることを指摘している。以上の先行研究から、学生は、教育実習において資質・能力という観点からも多くの学びを得ていることが考えられる。ただ、その学びを明らかにするために、教育実習前後のタイミングで何らかの根拠を基にして、学生の自己評価による検証が必要となってくる。

次に、学生の資質・能力に注目して、保健体育科の教育実習前後の変化について研究したものとして、瀬尾ほか(2014)は、教育実習によって学生の実践的指導力と自発的行動力の向上と教育実習前の事前実習の有効性について報告している。また、下永田ほか(2017)は、学生の教員に求められる資質・能力を評価するにあたって、学生の自己評価だけでなく、実習担当教員からの評価も同時に行い、両者の評価に大きな相違は無かったことを確認している。

以上の先行研究を概観した限り、教育実習において学生が教員としての資質・能力について学びを得ていることは認識できるが、その具体的な内容については、評価の指標が統一されていないことや、大学によって教職課程が違うことなどが要因で共通認識を得

るまでには至っていない。このような点から、今後も教育実習で向上する学生の資質・能力についての研究の蓄積は必要である。

2. 研究の目的

本研究では、O県A大学体育学部の学生が、中学校や高等学校での教育実習(母校実習)において、どのような学びを得ているのか明らかにする。具体的には、以下の2点の研究課題を設定する。

- 1) A大学の学生が教育実習において保健体育教員としての資質・能力を向上させているのか調査する。
- 2) 1)の結果の考察材料として学生が教育実習で感じた困難について調査する。

3. 研究の方法

3.1. 保健体育教員としての資質・能力に関する学生の自己評価の調査について

鍋島(2016)で示された中等教育・保健体育教員の資質・能力一覧を援用し、学生の自己評価項目を12項目作成した(表1)。これは、国立教育政策研究所プロジェクト研究の「教員養成等の改善に関する調査研究」において策定された中等教育・保健体育教員の「教育者に求められる資質や能力」(p.28)を基にしている。この自己評価項目によって、学生が教育実習の前後に、「十分に持っている」、「少し持っている」、「どちらとも言えない」、「あまり持っていない」、「全く持っていない」の5段階での自己評価を行い、その回答結果について対応のあるt検定を用いて比較した。

また、教育実習(母校実習)は一般的には4年生で実施するものであるが、A大学では3年生で大半の学生が実施している。そこで、4年生と3年生の回答結果について、対応のないt検定を用いて比較した。

表1 保健体育教員としての資質・能力に関する自己評価項目一覧

使命感や責任感	教育者としての使命感や責任感
	教育という職業に対する誇り
教育的愛情や誇り	生徒に対する教育的愛情
人間性や社会性	人間の成長・発達についての深い理解
	学校組織の一員として活動するための社会性、同僚と協力して教育を展開する協働性
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	文化や学問・科学技術、社会の動向について関心を持ち、生徒からも学び、共に成長しようとする姿勢
生命尊重・健康管理・安全の意識	教育活動のあらゆる場面において、生徒のいのちとからだ・健康を守るという意識
対人関係能力	他者と円滑に意思疎通するためのコミュニケーション能力
問題解決能力	現代の教育の課題を自覚し、それらを解決しようとする姿勢
地球的な視野やその行動	国際化、グローバル化に対応し、地球的な視野で物事を捉え行動できる能力
ICTやその倫理	ICTに関する基礎的知識や技能
	情報化社会において必要とされる倫理や規範について理解

3.2. 教育実習で感じた困難の調査について

教育実習を実施した学生に対して、教育実習で困難を感じたことについて、自由記述での回答を求めた。得られたテキストデータについて、意味が分かる単語や文節ごとに区切ったうえで、KJ法（川喜田，1967）を用いて、同じような内容ごとに小カテゴリー、中カテゴリー、大カテゴリーに分類した。分類の際には、メリアム（2004）が提示した質的研究の内的妥当性を高めるための方策のうち、複数の調査者でデータの分析を行う「トライアングレーション」を採用し、体育科教育学を専門とし、高等学校での勤務経験もある大学教員2名と、体育科教育学を専門とし、教育系大学の附属中学校に勤務する教員1名で行った。

3.3. 対象者・調査方法・時期と倫理的配慮

今回の調査については、A大学の授業である教育実

習事前・事後指導を履修している96名を対象とした。調査方法はgoogle formsを活用してeアンケート方式を採用した。調査時期は2023年5月29日から8月10日までである。

今回の調査をするにあたって、回答結果は大学の成績評価と関係が無いこと、研究に協力したくない場合は、回答する義務は無いことを説明した後に実施した。

以上の手続きを経て、67名（55.8%）ぶんを有効回答として取り扱った。

4. 結果

4.1. 保健体育教員としての資質・能力に関する学生の自己評価の結果について

保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の回答について、教育実習前後での比較結果を表2に示す。大半の資質・能力について、教育実習前より教育実習後のほうが回答結果が高くなることが確認された。また、問題解決能力、地球的な視野や行動、ICTやその倫理については、教育実習前後を通して他の回答結果よりも低い数値となった。

表2 保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について教育実習前後での比較

自己評価項目	実習前		実習後		
	M	S.D.	M	S.D.	
使命感や責任感	4.01	0.83	4.58	0.61	**
	4.39	0.65	4.69	0.58	**
教育的愛情や誇り	4.48	0.77	4.79	0.51	**
人間性や社会性	4.10	0.82	4.40	0.70	*
	4.22	0.65	4.43	0.68	
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	4.22	0.79	4.43	0.68	*
生命尊重・健康管理・安全の意識	4.63	0.55	4.75	0.56	
対人関係能力	4.07	0.86	4.40	0.68	**
問題解決能力	3.85	0.87	4.21	0.75	**
地球的な視野やその行動	3.61	0.94	3.96	0.84	*
ICTやその倫理	3.42	0.91	3.88	0.79	**
	3.97	0.92	4.15	0.78	

* : p<.05 ** : p<.0

保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について、4年生の教育実習前後での比較結果を表3に示す。半数以上の項目について、教育実習前よりも教育実習後のほうが回答結果が高くなることが確認された。

表3 保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について4年生の教育実習前後での比較

	実習前		実習後		
	M	S.D.	M	S.D.	
使命感や責任感	4.34	0.77	4.82	0.38	**
	4.69	0.47	4.78	0.51	
教育的愛情や誇り	4.69	0.47	4.87	0.34	
人間性や社会性	4.26	0.75	4.60	0.58	*
	4.26	0.68	4.69	0.55	*
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	4.30	0.82	4.60	0.49	*
生命尊重・健康管理・安全の意識	4.65	0.57	4.69	0.55	
対人関係能力	4.17	0.77	4.65	0.57	*
問題解決能力	3.87	0.92	4.43	0.59	**
地球的な視野やその行動	3.82	0.93	4.21	0.90	
ICT やその倫理	3.69	0.97	4.21	0.73	*
	4.34	0.64	4.60	0.65	

* : p<.05 ** : p<.01

保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について、3年生の教育実習前後での比較結果を表4に示す。半数の項目について、教育実習前よりも教育実習後のほうが回答結果が高くなることが確認された。

表4 保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について3年生の教育実習前後での比較

自己評価項目	4年生		3年生		
	M	S.D.	M	S.D.	
使命感や責任感	4.34	0.77	3.84	0.80	**
	4.69	0.47	4.22	0.67	**
教育的愛情や誇り	4.69	0.47	4.36	0.86	*
人間性や社会性	4.26	0.75	4.02	0.84	
	4.26	0.68	4.20	0.63	
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	4.30	0.82	4.18	0.78	
生命尊重・健康管理・安全の意識	4.65	0.57	4.61	0.53	
対人関係能力	4.17	0.77	4.02	0.90	
問題解決能力	3.87	0.92	3.84	0.86	
地球的な視野やその行動	3.82	0.93	3.50	0.92	
ICT やその倫理	3.69	0.97	3.27	0.84	*
	4.34	0.64	3.77	0.98	**

* : p<.05 ** : p<.01

保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について、3年生と4年生の教育実習前後での比較結果を表5に示す。使命感や責任感、教育的

愛情や誇り、ICTとその倫理について、4年生のほうが3年生より回答結果が高くなることが確認された。

表5 保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について3年生と4年生の教育実習前後での比較

自己評価項目	4年生		3年生		
	M	S.D.	M	S.D.	
使命感や責任感	4.34	0.77	3.84	0.80	**
	4.69	0.47	4.22	0.67	**
教育的愛情や誇り	4.69	0.47	4.36	0.86	*
人間性や社会性	4.26	0.75	4.02	0.84	
	4.26	0.68	4.20	0.63	
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	4.30	0.82	4.18	0.78	
生命尊重・健康管理・安全の意識	4.65	0.57	4.61	0.53	
対人関係能力	4.17	0.77	4.02	0.90	
問題解決能力	3.87	0.92	3.84	0.86	
地球的な視野やその行動	3.82	0.93	3.50	0.92	
	3.82	0.93	3.50	0.92	
ICT やその倫理	3.69	0.97	3.27	0.84	*
	4.34	0.64	3.77	0.98	**

* : p<.05 ** : p<.01

保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について、3年生と4年生の教育実習後の比較結果を表6に示す。大半の項目について、4年生のほうが3年生より回答結果が高くなることが確認された。

表6 保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について3年生と4年生の教育実習後の比較

自己評価項目	4年生		3年生		
	M	S.D.	M	S.D.	
使命感や責任感	4.82	0.38	4.45	0.66	**
	4.78	0.51	4.63	0.61	
教育的愛情や誇り	4.87	0.34	4.75	0.57	
人間性や社会性	4.60	0.58	4.29	0.73	*
	4.69	0.55	4.29	0.70	**
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	4.60	0.49	4.34	0.74	*
生命尊重・健康管理・安全の意識	4.69	0.55	4.77	0.56	
対人関係能力	4.65	0.57	4.27	0.69	*
問題解決能力	4.43	0.59	4.09	0.80	*
地球的な視野やその行動	4.21	0.90	3.81	0.78	*
ICT やその倫理	4.21	0.73	3.70	0.76	**
	4.60	0.65	3.90	0.74	**

* : p<.05 ** : p<.01

4.2. 学生が教育実習に感じた困難の調査結果について

学生が教育実習中に感じた困難についてカテゴリごとの学年別表出数と割合を表7に示す。大カテゴリに分類された割合を比較すると、ほぼ差が無いことが分かった。次に、中カテゴリに分類された割合を比較すると、授業に関わる準備では4年生が3年生より困難を感じていることが分かった。授業方法では、3年生が4年生より困難を感じていることが分かった。生徒とのコミュニケーションでは3年生が4年生より困難を感じていることが分かった。教師としての知識では、4年生が3年生より困難を感じていることが分かった。教師としての能力では、3年生が4年生より困難を感じていることが分かった。なお、小カテゴリに分類された割合の結果については、紙幅の都合上本論文では省略する。

5. 考察

5.1. 保健体育教員としての資質・能力に関する学生の自己評価についての考察

表2の結果より、A大学の学生は教育実習において保健体育教員としての資質・能力を向上させているが、問題解決能力、グローバル化、ICTについて大学の授業で更なる補完が必要である。

表3～6の結果より、A大学では3年生よりも4年生で教育実習を実施した学生のほうが、保健体育教員としての資質・能力の向上について実感している。これは、4年生のほうが3年生より履修している教職関係の授業数が多く、その内容に模擬授業が含まれていること（環太平洋大学、2022）が影響していると考えられる。これらの結果を踏まえると、学生が教育実習でより多くの学びを得るためには、4年生での実施が望ましいと言える。しかしながら、文部科学省は令和6年度からの教員採用試験について、試験時期の早期化の観点から6月16日で実施することを提示している（文部科学省、2023）。現状、教育実習は5月から6月に実施されており、このままでは4年生は教育実習期間中に教員採用試験を受けるということになり、かなりの負担を強いられることが考えられる。

以上のことから、A大学の教職課程においては、現状の4年生までに履修している教職関係の授業を、できる限り3年生の教育実習までに履修できるよう検討することが求められる。

5.2. 学生が教育実習に感じた困難の調査結果の考察について

表7の結果より、大カテゴリに分類した割合からは学年別による差を見ることはできなかった。しかしながら、中カテゴリでの分類によって、4年生のほうが3年生より、授業に関わる準備と教師としての知識などに困難を感じており、3年生のほうが4年生より、授業方法と生徒とのコミュニケーション、教師としての能力など授業や教師としてマネジメントに困難を感じていた。これは、先述したように4年生のほうが3年生よりも教職課程関係の授業を多く履修し、その内容として模擬授業を多く経験していたことが影響していると推察される。濱本ほか（2020）は、教育実習生のリフレクションに注目し、授業実践経験の少ない時期は、マネジメントを含む教授方法に関することが多くリフレクションに表出する特徴があると報告しており、これは今回の3年生の結果と同様であることが考えられる。さらには、教育実習生は授業のマネジメントができるようになると、教材の意図やポイントを生徒に伝えるといった説明することに関心が向き、それに関する知識が多く表出することも報告しており、これも今回の4年生の結果と同様であることが考えられる。

以上のことから、4年生のほうが3年生よりも、大学での模擬授業などの経験数の差から、教育実習では、より発展した困難を感じていることが推察される。

6. まとめ

本研究では、O県A大学体育学部の学生が、中学校や高等学校での教育実習（母校実習）において、どのような学びを得ているのか明らかにするため、その資質・能力と教育実習で感じた困難に焦点をあてて調査と分析を行った。

その結果、以下の3点について明らかとなった。

- 1) A大学の学生は、教育実習において保健体育教員としての資質・能力の大半を向上させているが、問題解決能力、グローバル化、ICTについては、大学の教職課程での更なる充実が必要である。
- 2) 教育実習期間中の保健体育教員としての資質・能力の向上という観点では、4年生で教育実習を実施するほうが効果的ではあるが、今後の教員採用試験の早期化を踏まえると、3年生の教育実習までに、現在の4年生が履修済みの教職関係の授業

表7 学生が教育実習中に感じた困難についてカテゴリーごとの学年別表出数と割合

学年	大カテゴリー	数	%	中カテゴリー	数	%	小カテゴリー	数	%		
4	授業	34	56.7	授業に関わる準備	15	25.0	ICT 活用方法	3	4.9		
							教材を解釈する力	6	9.8		
							教材を構成する力	2	3.3		
							授業準備	2	3.3		
							体育の教材研究に関する知識や方法	1	1.6		
							保健に関する知識	1	1.6		
				授業方法	19	31.7	ICT 活用方法	4	6.6		
							支援を要する生徒への理解	5	8.2		
							授業中に対応する力	2	3.3		
							授業方法	7	11.5		
	生徒との関係性	8	13.3	生徒とのコミュニケーション	5	8.3	生徒とのコミュニケーション	3	4.9		
							生徒理解	2	3.3		
	生徒指導	3	5.0	生徒指導	3	4.9	生徒指導	3	4.9		
	教師としての自分	18	30.0	教師としての知識	7	11.7	トラブルに対応するための知識や方法	1	1.6		
							教師として知識	5	8.2		
							自分の実技経験	1	1.6		
教師としての能力				11	18.3	学校での様々な場面における対応力	2	3.3	教師としての適性	9	14.8
その他							1	1.6			
3	授業	56	56.0	授業に関わる準備	18	18.0	指導案の作成	2	2.0		
							授業準備	3	3.0		
							体育に関する知識	1	1.0		
							保健に関する知識	5	5.0		
							教材を解釈する力	5	5.0		
							教材を構成する力	2	2.0		
				授業方法	38	38.0	ICT 活用方法	7	7.0		
							支援を要する生徒への理解	3	3.0		
							授業経験	4	4.0		
							授業中に対応する力	10	10.0		
							授業方法	7	7.0		
							体育の授業方法	3	3.0		
							道徳に関する授業方法	1	1.0		
	保健の授業方法	3	3.0								
	生徒との関係性	15	15.0	生徒とのコミュニケーション	13	13.0	生徒とのコミュニケーション	10	10.0		
							生徒理解	3	3.0		
				生徒指導	2	2.0	生徒指導	2	2.0		
	教師としての自分	29	29.0	教師としての知識	7	7.0	トラブルに対応するための知識や方法	1	1.0		
							教師としての知識と経験	1	1.0		
							教師として知識	5	5.0		
教師としての能力				22	22.0	学校での様々な場面における対応力	2	2.0	学校内でのコミュニケーション	6	6.0
									教師としての適性	10	10.0
									教師とのコミュニケーション	1	1.0
									ホームルームでの指導方法	3	3.0

を、できる限り3年生の教育実習までに修了することが求められる。

- 3) 教育実習で学生が感じた困難については、4年生と3年生で、教職課程関係の授業の履修数の差からくる違いが推察された。すなわち、4年生のほうが3年生よりも、大学での模擬授業などの経験数の差から、より発展した困難を感じている。

7. 本研究の課題と展望

本研究では、教育実習期間におけるA大学の学生の学びについて、保健体育教員としての資質・能力に着目して研究した。その方法として、アンケート形式による自己評価と自由記述の分析を行ったが、有効回答数が少なかったことが課題の一つとして挙げられる。この点については、アンケート調査の方法やタイミングを検討することで改善できると思われる。

また、今回は4年生と3年生での学年別での比較を行ったが、教育実習以前での教育実践経験が、学生の教育実習での学びに影響を与える(平田ほか, 2019)ことなどから、今回の結果について、学生の教育系課外活動(学校ボランティア, スポーツ指導, 学習塾のアルバイトなど)を分析の視点として加えることも考えられる。

引用文献

- 濱本想子・岩田昌太郎・齊藤一彦(2020) 体育科教育実習生の「授業における知識」の特徴と変容に関する事例研究. 体育学研究, 65, (0) : pp.53-71.
- 長谷川順一・山岸知幸・川地由美・山内秀則・三好一生・吉井雅英・山下さゆり(2012) 小学校及び中学校主免教育実習生の教育実習に対する態度傾向. 香川大学教育実践総合研究, 25 : pp.137-146.
- 平田佳弘・京林由季子・吉岡利貢・降屋丞・長谷川晃一(2019) 中学校・高等学校教育実習(保健体育)の実施状況と実習生の意識—第2報—. 環太平洋大学研究紀要, 14 : pp.73-81.
- 環太平洋大学(2022) 2022カリキュラムマップ(体育学科). https://ipu-japan.ac.jp/ipu/wp-content/uploads/2022/06/2022curriculum_06.pdf (2023年8月26日参照)
- 川喜田二郎(1967) 発想法—創造性開発のために. 中公新書.
- メリアム: 掘薫夫・久保真人・成島美弥訳(2004) 質的調査法入門: 教育における調査法とケース・スタ

ディ. ミネルヴァ書房.

- 文部科学省(2023) 公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等について方向性の提示. https://www.mext.go.jp/content/20230531-mxt_kyoikujinzai02-000011998_1.pdf. (2023年8月29日参照)
- 鍋島文(2016) 教員の資質・能力及び養成段階の到達目標 初等教育/中等教育・数学/中等教育・保健体育に焦点化して. https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pf_pdf/20160926.pdf (2023年4月10日参照)
- 永田孝夫(2013) 教育実習における授業実習の現状と改善—『教育実習記録』から実習生の授業実習を分析する—. 愛知大学教職課程研究年報, 2 : pp.69-82.
- 中川麻衣子・濱本想子・辻亮太・敖敦其其格(2021) わが国の教育実習における特質と展開に関する歴史的検討. 日本教科教育学会誌, 第43巻(4) : pp.13-23.
- 瀬尾賢一郎・永山寛・深江久嗣・藤井雅人・田中守・築山泰典(2014) 教育実習による教員資質能力への効果からみた学内実習の可能性について—保健体育科教員を目指す学生を対象として—. 大学体育学, 11 : pp.39-45.
- 下永田修二・菩提寺将・佐々木篤史・渡辺明日子・七澤朱音・西野明・杉山英人・小宮山伴与志・佐藤道雄(2017) 中学校保健体育科教育実習における実習生の資質能力の変化—実習生の自己評価と実習指導教員の評価の比較—. 千葉体育学研究, 39 : pp.1-11.

内容に誤りがありましたので、令和6年3月6日に差し替えいたします。

表3 保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について4年生の教育実習前後での比較

	実習前		実習後		
	M	S.D.	M	S.D.	
使命感や責任感	4.34	0.77	4.82	0.38	**
	4.69	0.47	4.78	0.51	
教育的愛情や誇り	4.69	0.47	4.87	0.34	
人間性や社会性	4.26	0.75	4.60	0.58	*
	4.26	0.68	4.69	0.55	*
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	4.30	0.82	4.60	0.49	*
生命尊重・健康管理・安全の意識	4.65	0.57	4.69	0.55	
対人関係能力	4.17	0.77	4.65	0.57	*
問題解決能力	3.87	0.92	4.43	0.59	**
地球的な視野やその行動	3.82	0.93	4.21	0.90	
ICT やその倫理	3.69	0.97	4.21	0.73	*
	4.34	0.64	4.60	0.65	

* : p<.05 ** : p<.01

保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について、3年生の教育実習前後での比較結果を表4に示す。半数の項目について、教育実習前よりも教育実習後のほうが回答結果が高くなることが確認された。

表4 保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について3年生の教育実習前後での比較

自己評価項目	実習前		実習後		
	M	S.D.	M	S.D.	
使命感や責任感	3.84	0.80	4.45	0.66	**
	4.22	0.67	4.64	0.61	**
教育的愛情や誇り	4.36	0.86	4.75	0.58	*
人間性や社会性	4.02	0.84	4.30	0.73	
	4.20	0.63	4.30	0.70	
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	4.18	0.78	4.34	0.75	
生命尊重・健康管理・安全の意識	4.61	0.53	4.77	0.57	
対人関係能力	4.02	0.90	4.27	0.69	
問題解決能力	3.84	0.86	4.09	0.80	
地球的な視野やその行動	3.50	0.92	3.82	0.79	
ICT やその倫理	3.27	0.84	3.70	0.76	*
	3.77	0.98	3.70	0.76	**

* : p<.05 ** : p<.01

保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について、3年生と4年生の教育実習前後での比較結果を表5に示す。使命感や責任感、教育的

愛情や誇り、ICTとその倫理について、4年生のほうが3年生より回答結果が高くなることが確認された。

表5 保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について3年生と4年生の教育実習前後での比較

自己評価項目	4年生		3年生		
	M	S.D.	M	S.D.	
使命感や責任感	4.34	0.77	3.84	0.80	**
	4.69	0.47	4.22	0.67	**
教育的愛情や誇り	4.69	0.47	4.36	0.86	*
人間性や社会性	4.26	0.75	4.02	0.84	
	4.26	0.68	4.20	0.63	
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	4.30	0.82	4.18	0.78	
生命尊重・健康管理・安全の意識	4.65	0.57	4.61	0.53	
対人関係能力	4.17	0.77	4.02	0.90	
問題解決能力	3.87	0.92	3.84	0.86	
地球的な視野やその行動	3.82	0.93	3.50	0.92	
ICT やその倫理	3.69	0.97	3.27	0.84	*
	4.34	0.64	3.77	0.98	**

* : p<.05 ** : p<.01

保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について、3年生と4年生の教育実習後の比較結果を表6に示す。大半の項目について、4年生のほうが3年生より回答結果が高くなることが確認された。

表6 保健体育教員としての資質・能力に対する学生の自己評価の結果について3年生と4年生の教育実習後の比較

自己評価項目	4年生		3年生		
	M	S.D.	M	S.D.	
使命感や責任感	4.82	0.38	4.45	0.66	**
	4.78	0.51	4.63	0.61	
教育的愛情や誇り	4.87	0.34	4.75	0.57	
人間性や社会性	4.60	0.58	4.29	0.73	*
	4.69	0.55	4.29	0.70	**
文化・学問・社会への関心と学びの姿勢	4.60	0.49	4.34	0.74	*
生命尊重・健康管理・安全の意識	4.69	0.55	4.77	0.56	
対人関係能力	4.65	0.57	4.27	0.69	*
問題解決能力	4.43	0.59	4.09	0.80	*
地球的な視野やその行動	4.21	0.90	3.81	0.78	*
ICT やその倫理	4.21	0.73	3.70	0.76	**
	4.60	0.65	3.90	0.74	**

* : p<.05 ** : p<.01